

藤井達吉コレクションFT436

《絵巻「知立のかきつばた」》解説

凡例

- ・ 本資料は、愛知県美術館が所蔵する藤井達吉コレクションFT436《絵巻「知立のかきつばた」》の解説である。
- ・ 今回、愛知県美術館友の会 所蔵品管理サポート部会有志の協力を得て解説を行い、その成果をまとめた。
- ・ 構成は、上段に絵巻を配し、下段にくずし字の読み下し文、その下にかっこ書きで現代仮名遣い文を添えた。
- ・ 解説に携わったのは下記のとおりである。(五十音順、敬称略)

萩野孝

加藤喜美代

丹阿弥彰子

平松章子

武藤和子

村尾哲

編集 高木久子 脇屋佳秀子

FT436《絵巻「知立のかきつばた」》の基礎調査は愛知県美術館の中西園子、平瀬礼太が行い、高木久子、脇屋佳秀子が調査補助を行った。

藤井達吉の文を解説するにあたり、多大なご協力を賜りました愛知県美術館友の会所蔵品管理サポート部会の有志の皆様および碧南市藤井達吉現代美術館の土生和彦氏に、心から御礼申し上げます。



地鯉附の奥に（地鯉附の奥に）
かき都婆堂の（かきつばたの）

元種の天然記念（元種の天然記念）

尔保古さ連を留を（に保護されおるを）

き、天知友二三登（聞きて知友二三と）

た川祢五町歩あま（たずね五町歩あま）

りの池に人工のな（りの池に人工のな）

き自然のありのま、（き自然のありのまま）

な留を八ツはし（なるを八橋）

な登の伝説を（などの伝説を）

おも非天来、尔（思いて聞きに）

於も非の末、尔（思いのままに）

見堂りければ（見たりければ）

写生もな九おも（写生もなく思）

悲傳の末、にか（い出のままに書）

き都具（き継ぐ）



所のむ可し（その昔）

八つ波し毛（八橋も）

閑九所あ羅牟登（かくぞあらんと）

東母登可堂り都（友と語りつ）

見礼盤（見れば）

當ぬ（樂）

し裳（しも）

おも非を所（思いをぞ）

ち東世の（千年の）

む可しに（昔に）

閑邊利（帰り）

希里（けり）

なり非羅大人の（業平大人の）

見之盤（見しは）

古の波奈（この花）



な利非羅の(業平の)

大人も(大人も)

いかに 面傳都(如何に 愛でつ)

羅無(らん)

春駕堂の(姿の)

あ王礼(哀れ)

有川久し来(美しき)

可難(かな)

千年の(千年の)

む可し(昔)

於も非都(思いつ)

か来都婆堂(かきつばた)

波那を(花を)

見川、(見つつ)

い希を(池を)

万波連類(廻れる)



波流可尔母(遙かにも)

非登波奈(二花)

散け留(咲ける)

い東之散餘(愛しさよ)

む羅さ支(紫)

尔本布(匂う)

非東李 波那連(一人 離れ)

豆(て)

いけのへを(池の辺を)

末波李(廻り)

萬王(廻)

梨天(りて)

見川、遊九(見つつ行く)

非東李し(一人し)

遊け盤(行けば)



堂ぬし(樂し)

可り(かり)

鶏利(けり)

以丹しへの(いにしへの)

久散万久羅(草枕)

し天(して)

見丹川良無(見につらん)

美ちのへ二(道の辺に)

散久(咲く)

可起都婆堂の(かきつばたの)

波那(花)

美可和ちを(三河路を)

久散萬久良(草枕)

し天(して)



堂非許呂裳(旅衣)

有支許東(憂きこと)

和春礼(忘れ)

見しや(見しや)

許の波奈(この花)

布流散東を(故郷を)

古非都、(恋いつつ)

見川(見つ)

羅牟(らん)

可起川婆太(かきつばた)

布流起(古き)

堂非祢の(旅寝の)

をも本遊留(思おゆる)

可那(かな)



くさまくら
久散万久羅 (草枕)

許の (この)

い希 (池)

のへに (の辺に)

いねつらむ
衣川羅牟 (居寝つらん)

むかし (昔)

志ぬ非都 (偲びつ)

けふ
希布を (今日を)

閑太 (語)

類母 (るも)

のだて
野堂天 (野点)

し豆 (して)

むか志 (昔)

しぬ非都 (偲びつ)



かたり
可堂李 川、 (語り つつ)

許の (この)

閑起 (かき)

都婆太の (つばたの)

なつか
奈都可し支可難 (懐かしきかな)

を非東裳東 (古い友と)

けふの
気布能 (今日の)

非登日農 (一日の)

た
堂ぬ之か李 (楽しかり)

鶏李 (けり)

いけのへを (池の辺を)

まは理 (廻り)

万波里轉 (廻りて)

みるは
見留者 (見るは)

太ぬ (楽)

し裳 (しも)



許非都、も (恋いつつも)

氣布 (今日)

古、尔 (ここに)

堂川年来し (訪ね来し)

加記都の (かきつの)

波奈能 (花の)

見礼者 (見れば)

有礼し起 (嬉しき)

い気のへを (池の辺を)

め俱り (巡り)

免く李豆 (巡りて)

加起川波堂 (かきつばた)

閑太里 (語り)

加堂連盤 (語れば)



太ぬし支ものを (楽しきものを)

おも非支や (思いきや)

堂川祢 (訪ね)

来ぬ (きぬ)

天布 (ちよう)

奈尔 (名に)

しあ布 (しおう)

加岐都の (かきつの)

波奈を (花を)

遊面登 (夢と)

見天を理 (見ており)

夢奈礼や (夢なれや)

い農ち奈礼や (命なれや)



東し堂け天 (年長けて)
 ち里布の (知立の)
 を久二 (奥に)
 堂川祢来ぬ (訪ね来ぬ)
 天布 (ちよう)
 夢の世を (夢の世を)
 遊面の (夢の)
 許東九二 (如くに)
 閑支都婆太 (かきつばた)
 波奈東 (花と)
 閑堂李川 (語りつ)
 遊めを (夢を)
 見類 (見る)
 可那 (かな)



誰礼 (誰)
 可礼盤 (彼は)
 いかル見留 (いかに見る)
 東裳 (とも)
 非登の世を (人の世を)
 万堂あ布へ (また会うべ)
 し登 (しと)
 おも波 (思わ)
 散り勢婆 (ざりせば)
 奈尔気奈九 (何気なく)
 奈美駄 (涙)
 ぬ俱非ぬ (拭いぬ)
 茶王無 (茶碗)
 裳ち豆 (持ちて)



許礼これの（これの）

奈己李なごり（なごり）

もへ盤ぼ（思えば）

波迦那志はかなし（はかなし）

さ羅盤さらば（さらば）

散良波さらば（さらば）

いへ地尔ち（家路に）

遊可無ゆかむ（行かん）

希布けふ 非東日ひとひ（今日 一日）

夢の又ゆめ（夢の又）

遊面ゆめ（夢）

由能能ゆ（夢の）

ま堂たま（また）

由免ゆめ（夢）



け布けふの日をいの地ち（今日の日を命）

堂万たま天て（賜いて）

あ連婆許所あればこそ（あればこそ）

堂川たが衿来ぬきぬ天布てふ（訪ね来ぬちよう）

夢奈羅むな（夢なら）

奈久二なくに（なくに）

七三

達翁